



愛知陸協広報

第16号

22年1月1日発行

愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

e-mail ark@marble.ocn.ne.jp

ホームページ: url <http://gold.jaic.org/jaic/member/aichi/>

陸上王国愛知復活!!

第40回ジュニアオリンピックで大活躍

男子4×100mR 優勝 42.35 大会新記録
1走 秋江 洋志 (AC一宮・1年)

リレーでは、個人種目の100mよりも緊張しましたが、バトンをミスせず河室先輩に渡せたのでほっとしました。大会新記録で優勝できとてもうれしいです。来年もジュニアオリンピックのリレーメンバーに選ばれるように一生懸命練習したいと思います。

2走 河室 裕貴 (弥富中・3年)

自分にとって最後のジュニアオリンピックだったので、個人種目の200mに出場できず悔しい思いをしました。でも、4×100mRで優勝できてとても嬉しかったです。

来年は、個人種目とリレーの両方でインターハイの決勝に残れるように頑張りたいです。

3走 掛川 真 (豊明栄中・2年)

リレーの決勝では、みんなが一つになり、バトンパスもうまくいき、大会新記録を出すことができ、とてもうれし



男子4×100mR
(左前:秋江、右前:掛川、左後:鈴木、右後:河室)

く思います。前日の100mよりも調子がよく、力を発揮することができました。来年も優勝したいです。支えてくださった先生方、応援して下さった皆さん、ありがとうございました。

4走 鈴木 祐太

(本郷中・3年)

去年のリレーでは2位。前日の100mでは4位と、とても悔しい思いをしました。リベンジするには、このリレーしかないと思い、バトンをもらってからゴールを目指して全力で走りました。このメンバーで優勝。大会記録も更新。とても嬉しかったです。そして愛知の代表として日本一になれたことを誇りに思います。

高校進学後も、このリレーでの経験を生かし、1年生からインターハイで決勝に、また国体選手として愛知の代表として選ばれるように、これから技術面や精神面をしっかりと鍛えていきたいです。

C100mH 優勝 13.84 大会新記録

岩崎 聖 (東海中・1年)

昨年の小学校の全国大会では着差で4位と悔しい思いをしたので、今年は後半のピッチが落ちないように練習に取り組みました。練習の成果がしっかり出せて、大会新記録で優勝することができてうれしいです。今まで支えてくれた方々に感謝しています。来年は110mHで、全国中学陸上競技大会出場とジュニアオリンピック大会優勝を目指します。

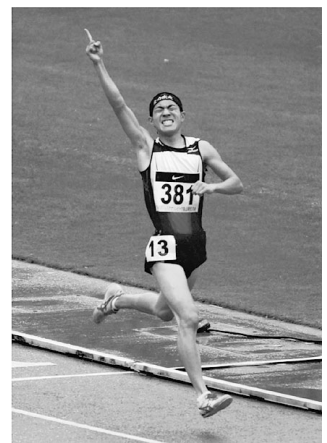


C100mH 岩崎 聖

B1500m 優勝 4.04.60

西山 令 (葵中・2年)

今回、ジュニアオリンピックで優勝できたことは、本当に嬉しく思っています。しかし、来年の全日本中学で二種目制覇という目標があるので、今回の優勝はまだ通過点だと思っています。だから、これからの練習を大切にして、目標が達成できるように頑張ります。



B1500m 西山 令



新年を迎えて

理事長 外山 幸男

新年明けましておめでとうございます。
このたび、愛知陸上競技協会梅村清弘会長におかれましては、旭日重光章の栄に浴されました。

誠にありがとうございます。心からお慶びを申し上げます。

愛知陸協は、長年にわたる諸先輩のご努力によって培われてきた伝統を受け継ぎつつ、新たな変更の試みもしてまいります。

新しい年にあたり昨年を振り返りつつ展望を述べさせていただきます。

昨秋の「トキめき新潟国体」では、残念ながら予想を上まわる結果は得られませんでした。成年女子円盤投で室伏由佳さんが実力どおり優勝を飾り、4×100m リレーは男女とも入賞の目標を達成しました。今後に向けて明るい材料といえます。

ジュニアオリンピック大会では愛知の活躍が光りました。特に県選抜チームで臨んだ4×100m リレーにおいては、男子が大会新記録で優勝、女子が第2位に入賞することができました。選手諸君の努力と、指導された監督・コーチのご尽力に対し心から敬意を表します。今後とも高い目標に向かってステップアップを期待します。

国体はじめ、全国大会において選手が実力を発揮できる体制づくりは、選手強化はもちろんのこと、審判技術の面でも協力していくことが必要です。また、愛知陸協トレーナー部会は、全国的に見ても他に類を見ない活躍です。県の大会を初め国体・全国大会においても、救急活動のみならず、選手のコンディションづくりのサポートにより、実

力発揮の上での陰の力になっています。感謝とともに今後ともよろしくお祈りいたします。

12月の理事会において、都道府県対抗女子駅伝(京都)・男子駅伝(広島)の選手団が決定。代表選手は「チーム愛知」のもとに実力を発揮し、確実に「たすき」を繋いでくれることを期待します。

1月10日に高校生を対象に(財)日本陸連主催のJAAFジュニア育成プロジェクトU18を、瑞穂陸上競技場において開催します。参加できる機会に恵まれた高校生は、高いレベルの技術を習得して各学校に持ち帰り、技術の向上に努めてください。

日本ジュニア・ユース選手権大会を10月15日(金)～17日(日)に開催します。(財)日本陸上競技連盟主催であり、愛知陸協実行委員会がスタート。山梨大会視察も行ない、準備を進めております。重要なポイントである審判編成については、ベストのメンバーで運営していきたいと思っております。高校生指導者の方々には積極的にご協力をお願いします。全国大会開催にふさわしい審判技術向上の機会とし、4月の競技会から研修を重ねて行く予定です。愛知の高校生競技者は約6000名と、全都道府県で1・2を争う登録数です。大会での活躍を期待しています。

名古屋国際女子マラソンの東京マラソンのような大規模化については、近い時期での開催を目標に、愛知陸協として大きく動く年になります。

日本陸連の加盟団体法人化の方針にともない、愛知陸協におきましても、2年以内を目標に具体的に取組む年になります。

「陸上愛知」の復活を期待し、今年も選手強化、競技会運営に一層のご協力をお願いします。

支部報告

名古屋支部

今年度のトラックシーズンは、10/17・18の第37回支部選手権をもってほぼ終了。中学生・高校生の若い力の活躍に、今後一層の飛躍が期待できる年でした。各校の指導者に厚くお礼申し上げます。

審判員の高齢化が目立つので、若い指導者の審判協力を切にお願いします。精密機器の導入が進み、その対応が特に求められています。

今後も駅伝・マラソン・ロードレースと大会が続きます。ケガに留意され、選手諸君の一層の奮闘を期待します。

1 支部選手権優勝者

	男子	女子
100m	服部 辰也 10.71	渡辺有紀子 12.37
200m	服部 辰也 21.64	鷹羽 桃子 26.36
400m	高橋 健太 50.17	安保 真衣 58.73
800m	鈴木 俊介 1.58.30	真柄美乃里 2.15.13
1500m	鈴木 俊介 4.02.85	河内屋聡子 4.43.05
5000m	大野 雄揮 15.22.46	山下由都季 17.55.45
10000m	加藤 善隆 32.18.74	
110mH	久田 尚弥 14.24	
100mH		安藤由加里 15.00
400mH	大川 光 52.98	大谷友梨恵 1.02.10 (GR)
3000mSC	石塚 誠 9.20.01	

4×100mR	愛知学院大	41.49	至学館高	48.36
4×400mR	愛知大	3.21.52	至学館高	3.54.45 (GR)
走高跳	舟橋 勇太	2.00	佐藤 菜南	1.66
棒高跳	築地 涼平	4.91	高木 志帆	2.90
走幅跳	佐々木健太	6.88	賀川 綾子	5.61
三段跳	山崎 喜生	14.60	山川 詩織	12.14 (GR)
砲丸投	小山祐一郎	13.31	藤澤 華子	12.12
円盤投	石原 勇人	32.69	加藤 千枝	41.94
やり投	土田 慕由	59.08	加藤 千枝	41.47

※中学生で6位までの入賞者

- 金尾 圭祐 (1500m④) 山田 晴奈 (400m②)
- 服部 優重 (1500m②) 丹羽 風音 (1500m④)
- 棒高跳 (松下 琴子② 矢野 由梨③ 野々垣 光④)
- 女子4×100mR 千種⑥、女子4×400mR 千種⑤

2 今年度全日中で活躍した中学生

- 金尾 圭祐 (東港) 1500m⑧、3000m⑩ 角田 諒一 (豊正) 110mH ⑤
- 青山 耕也 (森孝) 走幅跳⑦ 北野 有紀 (愛知淑徳) 200m④
- 榊原小侑希 (河和) 走高跳⑥

4×100mR 男子・名古屋東海④、女子・長良④

3 今後の予定

①愛知陸協・支部陸上教室

- ★瑞穂会場 (1/9 1/23 予2/13)
- ※投てきは知多 (1/10 1/24 1/31)

★半田会場 (1/9 2/13)

②名古屋支部普及競技会 (知多、愛日)

- ★小学生大会 (2/6 2/27)
- ★中学生大会 (1/30 3/27)

③審判伝達講習会 (3/19 3/20)

(坂井田醇三)

尾張支部

一新競技場改修と競技活性化について

競技場の改修が終了し、4月4、5日の竣工記念第1回記録会を皮切りに、平成21年度の事業が滞りなく進み、あとは冬季シーズンのメイン事業である第57回尾張駅伝競走大会を残すのみとなった。あわただしい幕開けであったが、関係の皆様方に厚くお礼を申し上げたい。

平成21年度は、これまでの尾張陸上の歴史と伝統に、新競技場完成に伴う新たな歴史を重ねる第一歩の年となった。それはまさしく今後明るい未来を予感させるものだ。その一つとして今年度は新しく主催、共催、協賛等を含めて二つの事業が加わり、来年度以降も継続される見通しだ。愛知スポレクマスターズ陸上と愛知県一宮総合運動場主催の陸上教室である。愛知スポレクマスターズ陸上には前年比200%の参加があった。今後は一宮での継続開催が決定している。公認の競技会ではないが、陸上を愛する幅広い

年齢層の競技者が一同に会し、自己の可能性に挑戦し、また競技を愛するもの同士が旧交を温め合い、再会を誓う姿は人生そのものではないかと感動した。

<スポレクマスターズ陸上> 11月3日



また新しく運動場主催で始められた陸上教室は、総勢で200余名に及んだ。地元小中学生をはじめ、近隣の市町村からの参加を得て、成功裏に終えることができた。支部主催の3回の陸上教室に加え、新たな陸上愛好者の掘り起こしに寄与するものと期待する。指導をいただいた講師の方々の熱意に感謝申し上げたい。なお陸上教室のゲストとして地元一宮高校陸上部員の林雅人選手、山田涼馬選手にも参加をいただいた。紙面をお借りし今後のご活躍を祈念し、お礼申し上げます。



戦前大会の回顧〈1〉

昭和5年10月19日に始まった名岐駅伝も太平洋戦争の戦況激化に伴い、昭和18年2月の第13回大会を最後に中止のやむなきに至った。大会は昭和23年2月に復活するが、本稿では次号と2回に分けて13回の大会を参加団体の特性や参加資格等を中心に振り返ってみよう。

第1回大会は参加資格が「学生、青年団、倶楽部チーム」であったが、第2回大会ではこれに「在郷軍人、会社商店チーム」が加わった。この2回の大会の順位は参加資格に関係なく決められた。第3回大会からは「一般青年」と「学生」の二部制になった。競技は参加チームがそれ程多くないこともあって、前回までと同じく一緒に行なわれたが、順位は各部毎に決められるようになった。しかし、「学生の部」には高専と中(等)学校と一緒に競技を展開していたこともあり、年齢差もあって体力や競技力に差がありかなり問題があった。そのため第8回大会から参加資格が一般(青年団一般、実業団、倶楽部、大学高専学生チーム)と中等学校(中等学生、小学生チーム)になった。また、第11回大会から4区間が6区間になり各区間の距離が短縮されるとともに、1団体1チームに参加制限が行なわれた。これは特に「学生(中等学校)の部」に1団体複数チーム参加が多かったことが主な理由であろう(次号で詳述)。さらに第12回大会からは、第10・11回大会の参加チームの増加やレース中の混乱(特に自転車応援等)を避けるために両部のスタート時間に10分間の差をつけて行なわれた。以下、本稿では「一般の部」について振り返ってみよう。

①県別にみた参加団体数の推移

13回の大会のうち、第2回大会(注)を除く12回の大会についてみると(表)、全体では145団体(150チーム)が参加しているが、そのうち約72%が愛知、20%が岐阜であり、愛知所在の団体が圧倒的に多い。しかし、岐阜についてみると第10回からの4年間に参加数が増加し、集中している。

②参加資格別にみた団体数

全体では、青年団が53団体(54チーム)と実業団(会社・商店等)の52団体とが拮抗し、倶楽部は33団体(37チーム)となっている。大学・高専は第8回大会から上記のように一般の部での参加になったために7団体となっている。

③優勝団体

13回のうち、第8回大会から6連覇した「名古屋走友倶楽部」(以下「名走友」)が6回で突出し、他団体は各1回である。県別では愛知が6団体、岐阜・三重が各1団体。参加資格別では青年(団)チーム3回、倶楽部チーム10回である。

最後に、名岐駅伝の名物ランナーの1人で連続13回参加の柴垣利明について、所属団体の経歴からその足跡に触れておきたい。柴垣は、第1回大会には「東白壁青年団」から参加、第2・3回大会時の所属団体は手元の資料では確認できないが、第4・5回大会では「名古屋マラソン連盟OB」・「マラソンOB倶楽部」、第6・7回大会には「柴垣洋服店」としてチームをつくって参加、第8回以降「名走友」のメンバーとして参加し、戦前最後の大会となった第13回大会では、名走友のアンカーとして6連覇のテープを切っている(前号⑧に写真掲載)。

表 参加団体の特性(一般の部)

回	〈団体所在県〉			〈参加資格〉				計*
	愛知	岐阜	その他	青年団	倶楽部	会社・商店等	大学・高専等	
1	10	2①	0	10	1①	1	—	12①
2	注12②	8②	0	13③	4	3①	—	20④
3	8	1	0	5	2	2	—	9
4	6	2	0	2	3	3	—	8
5	8	1	1	3	3	4	—	10
6	8	2	0	2	3	5	—	10
7	10①	1	3	6	4①	4	—	14①
8	6①	1	0	2	3①	2	—	7①
9	7①	1	1	4	1①	4	—	9①
10	9①	5	1	6①	2	7	—	15①
11	13	6	2	7	3	9	2	21
12	9	4	1	3	4	6	1	14
13	11	3	2	3	4	5	4	16
計*	105④	29①	11	53①	33④	52	7	145⑤

*「計」には、第2回大会の数値は(注)の理由で除外して集計した。

注：第2回大会は参加申し込み28チームのうち、当日22チームの第1走者がスタートと新聞に記載されているが、競技結果は入賞5位までと選外6-10位までしか掲載されていないためそれ以外の参加チーム名は不明である。また、各中継所の到着順位10位までとレースの経緯を見ても上記の10チームしか確認できない。しかし、スタート時の写真を見るとそれに近い人数が推測されるし、1区のレース展開の様子が「本社前を出発した第1走者22名も約20丁(1丁=約109メートル)の押切ではもうトップ

とラストとの開きが5、6丁になってきた」という状況を考えると、参加チームの実力差が大きく、かなりのチームがレース半ばで脱落し、完走出来なかったのではないかと考えられる。(西垣 完彦)

<竣工記念陸上教室> 11月8日



(原川 豪)

西三河支部 支部の歴史紹介

競技場の本部室で、前支部長の鶴田先生と思い出話等に花を咲かせる事がある。話の内容は様々だが、抜群の記憶力と、正確さ、そして温もりのある話術について時間を忘れてしまうことが多い。手前味噌のようで…と遠慮がちに話されるが、正に支部の生き字引のような方である。ここにそのほんの一部を紹介させていただく。

「思いつくままに」

昭和24年秋、私が第4回国体(東京)でマラソンに4位入賞、無名の選手だったので、新聞に写真入りで報道してくれました。私にとっては全国大会で初めての入賞です。安城に帰って杉江光次先生(後の初代西三河支部長)に報告した時「よし、これで決まった」と言われたのを未だに忘れません。その時は何のことも分からなかったのですが、後になって、当時、杉江先生は西尾から安城高校へ赴任されてすぐ、安城公園広場を公認競技場にするべく町(当時安城町)に働きかけておられましたが、なかなか小さな安城では難しかったようです。当時、公認競技場と言えば県内では瑞穂と豊橋しかなかった時代でしたから、地元の選手の入賞で、町関係者も大変喜んでくれたようです。それから間もなく町議会で公認申請が決定されたと聞きました。少なからずその事で協力できたと思えました。



昭和29年度西三河大会
(陸上女100m決勝)安城陸上競技場

杉江先生の安城高校では「高校の先生なのか町役場の勤務か、どちらにいた時間が長いのか」と言われたぐらいだったようです。その事に関して、町会議員の堀尾武雄さんが議会の建設委員に選ばれていました。それと町体協理事で建設委員に選ばれた鈴木謙二さん、この二人は殆ど毎日グラウンドに顔を出し、建設の進捗振りを見に来られ、練習している私たちを激励して下さいました。公認申請の決定を記念して実施したのが、第1回全三河東西対抗です。この大会は大見為次町長や委員の皆さんが終日グラウンドで声援して下さいました記憶もあります。

公認の安城競技場建設に関わる貴重なお話でした。

春の叙勲において、岡崎陸上競技協会会長古久根啓夫氏が元消防長としての功績により瑞宝双光章の栄に浴されました。支部懇親会においてお祝いをしました。



お祝いの品を受け取る古久根氏(左)
(山内 満)

東三河支部

豊橋陸上競技協会の生涯スポーツ優良団体受賞



喜びの受賞の協会役員

豊橋陸上競技協会は、平成21年度生涯スポーツ優良団体として選出され、10月10日、文部科学省において表彰されました。当日は、牧田功会長と夏日輝久理事長が受賞式に出席しました。「生涯スポーツ優良団体」というのは、

文部科学省が地域または職場におけるスポーツの健全な普及及び発展に貢献し、地域におけるスポーツの振興に顕著な成果をあげたスポーツ団体に対して表彰しているものです。

ここで、豊橋陸上競技協会が地域におけるスポーツの振興に果たしてきた成果の一部を紹介したいと思います。

昭和9年に愛知陸上競技協会が創立され、その加盟団体の一つとして豊橋陸上クラブ(代表者鈴木伊太郎)が作られたのが始まりです。戦争による一時中断を経て、昭和22年に豊橋陸上競技協会が設立され、東三河支部の中核として多くの陸上競技大会の企画・運営に携わってきました。

昭和24年から始まった渥美半島一周駅伝競走大会は、昭和32年から渥美半島縦断駅伝競走大会と名称を変え、昭和34年には高校の部を独立させました。そして、昭和46年からは渥美半島駅伝競走大会と名称を変え、平成2年には女子の部が新設され、参加チームを増やして実施しています。

昭和26年に、スポーツを通じて市民の体力向上と親睦を図ることを目的に始まった豊橋市校区対抗体育大会は、その後たびたび名称が改められ、現在は「スポーツフェスタとよはし」として、豊橋市体育指導員協議会と協力して大会の運営をしています。

また、昭和45年に小学生を対象に発足した豊橋陸上クラブは、現在は指導の範囲を中学生にも広げて陸上競技の普及に努め、全国大会出場者を多数出すなどアスリートの育成に着実に実績を上げています。

今後も、先輩方が長年にわたって積み重ねてきた地域におけるスポーツの振興を、より発展させていきたいと考えています。
(兵道 重二)

専門委員会報告

施設・用器具委員会



自転車計測員

公認陸上競技会開催の6条件の一つとして、公認陸上競技場(長距離競走路ならび競歩路を含む)と検定用器具があります。ルールブックP.73~120の「競技用器具検定規程」「第1種・第2種公認陸上競技場の基本仕様」「公認陸上競技場および長距離競走路ならび競歩路規程」及び細則にしたがって検定が行なわれ、条件に合格したものが公認陸上競技場になります。

今回は庄内緑地公園長距離競走路ならびに競歩路の自転

ホープさん⑩

高塚 裕子さん (名城大学附属高校1年)

本校のグラウンドで黙々と投てきの練習に励み、一瞬一瞬に全力投球する彼女は、高校1年生にして既に落ち着き、情熱を放っている。練習や競技中の彼女には、もはや人を寄せ付けないオーラすら感じられる。彼女のこれまでのたゆまぬ努力と全国優勝という高い目的意識が、彼女自身の成長の鍵となっている。

私が、彼女を初めて見たのは、中学3年生の県大会の砲丸投で優勝した時である。その年の秋、ジャバリックスローで、ジュニアオリンピック県大会で優勝、全国大会では見事3位に入賞する快挙を果たした。

本校入学後は、やり投選手として新たな競技生活をスタートさせた。それ以降、目を見張る数々の記録を打ち立てた。

入学当初は「40m」を目標に練習していたが、最初の記録会でいきなり「45m」を越え、周囲を驚かせた。続く5月の名南インターハイ予選では「47m15」の県高校新記録を樹立し、その時点で目標を全国出場から全国入賞へと切り替えた。そこで注意したことは、まずケガをしないこと。そして、調子を上げすぎないようにすべて本番に照準を合わせて調整を図り、万全を期した。その成果もあり、見事全国インターハイでは決勝に残り、1年生ではただ一人入賞を成し遂げた。しかし、彼女は決しておごることなく、謙虚に練習に励み続けている。遠く、豊田市から朝早くに通い、早朝の本校グラウンドで練習に余念がない。

私は、一度も彼女の口から、愚痴や弱音、そして否定的な言葉を耳にしたことがない。彼女は非常に前向きな性格である。高い目標に向かって一心不乱に投てきに励んでいる。彼女の強みは何と言っても、その強靱な精神力と豊かな人間性にある。何事にも全力投球で取り組むそのひたむきさと何でも吸収していこうとする柔軟さに、無限の可能性を感じる。勉強もトレーニングも妥協はありえない。彼女は競技ばかりでなく、中学時代は生徒会長をやり、ボランティア活動にも積極的に参加していた。また先輩や仲間を大事にし、両親に対する敬意も忘れない。それが彼女のよきである。「選手は能力や技術だけでは優勝は狙えない。目標に到達するためには、その人なりの勝利哲学がある。」私は彼女の内にそれを感じる。常に考え、創意工夫を凝らしている。今後、スランプやケガとも戦わなければならないこともあるだろうが、それを克服してたくさんの人に応援される素敵なアスリートになってほしいと願っている。



谷政人先生と



練習風景

(陸上部顧問 谷 政人)

今年の全国インターハイでは、ベスト記録で入賞することができ、また県の代表として国体へも参加させていただきました。しかし、その国体では今季最低の記録で終ってしまい悔しい思いをしました。自分には負けたくない相手がいるので、その思いで練習を続けてきました。まだまだ精神的に弱く、技術もありません。来シーズンに向けて冬季練習に励み、精神的にも強くなり技術をつけ、シーズン最初の大会から自己ベストを更新したいです。

(高塚 裕子)

車計測について報告します。

11月15日(日)8時30分から18時まで計測・計算・日本陸連報告書作りを行ないました。その後、11月19日(木)に陸協事務所で報告書の整理確認をして陸連施設用器具委員会に郵送し、審査の結果(検定合格)を待ち、公認される運びとなりました。

【公認競技場・長距離競走路等の誕生までの流れ】

日本陸連へ公認申請 申請者愛知陸協(11/4) → 検定員・技術役員派遣者決定(11/11) → 検定実施報告書提出(11/20) → 本部施設用器具委員会審査(11/25) → 合格通知公認料請求書 → 公認料支払い後公認される

自転車計測員は、IAAF/AIMS公認コース計測員国際グレードB級の桑原、国内計測員C級の久保田(静岡)飯嶋(三重)の3名が指名されました。愛知陸協からは、青木・平川・岡本・吉越・花田の5名が参加しました。

自転車計測は次の様に進りました①検定メジャーの設置②直線300mでのカリブレションコース設置③コースの下見(5km、10km、20kmコース)④プレカリブレション⑤5kmコースのスタートからフィニッシュまで⑥10kmコースのスタートからフィニッシュまで⑦20kmコースのスタートからフィニッシュまで⑧ポストカリブレション

【2009年度の検定】

- ①ウエーブスタジアム刈谷(～2009.8.4)
3種(7/25)合格 青木・平川
- ②庄内緑地公園(20km)(～2009.12.3)
(11/15)久保田・桑原・飯嶋(青木・平川)
- ③犬山ハーフマラソンコース検定予定(～2010.1.14)
(12/19、20)青木・桑原・平川
- ④岡崎陸上競技場検定延期(～2009.6.29)

4種 延期願ひ提出済み(3月予定)

⑤愛知教育大学陸上競技場検定延期か?廃止か?調整中

3種 延期願ひ未提出(～2009.8.3)

【その他】

2010年度の検定予定で、本年度の事前指導の結果、安城陸上競技場・豊橋市営陸上競技場の全天候舗装の全面的張り替えが予算化されたことの報告を受けました。財政厳しき中、関係者の努力で良い陸上競技場にしていだけることは大変ありがたい事です。(青木 実)

審判委員会

トラックシーズンも終わり、各競技会の審判業務にご協力いただき感謝しています。すでに、駅伝・マラソンなどのロードレースのシーズンに入りました。審判の方々には引き続きご協力をお願いします。

5月と11月にB級審判資格取得講習会を行ないました。5月に33名、11月には31名、合わせて64名の方が、平成22年4月1日付けで新たに公認審判員の仲間入りをします。ご指導をよろしくをお願いします。

今年度はマスターズの全国大会があり、多くの参加者に恵まれ無事終了しました。審判員の方々には3日間、中には前日を含め4日間、朝早くから業務に従事していただきありがとうございました。名古屋ハーフマラソン・愛知県市町村駅伝(通称愛知駅伝)もスムーズな運営で無事終わることができました。まだまだ大きな大会が続きます。ご協力をお願いします。

22年度はジュニア・ユースの全国大会が行なわれます。普段の競技会から全国大会を意識した審判業務を心がけるようお願いします。

審判伝達講習会が、3月19日(金)の名古屋支部を皮切

りに各支部で行なわれます。ぜひ出席していただき、ルールの確認、各競技会での諸問題や運営方法等について話し合い、理解を深め、協力体制を整えていきたいと思ひます。

最後に、毎回お願いをしています審判調査はがきの提出と、競技会での審判服装を徹底するようにお願いします。

(榊原 茂)

選手強化委員会

新潟国体最終日、“ビッグスワン”には人のいないテントが多い中、チーム愛知のテントは今年も最後まで活気に溢れていました。

「リレーで男女ともに決勝に残っている県は愛知だけだ。思い切った後はやるだけ。4継はその県の競技力、県の強化力を示す競技だ。ここまでよくやった。胸を張れ」選手にはそんな気持ちを伝え招集所に送り出したのです。

前日のミーティングで「最弱愛知選手団」と酷評したほど本国体の成績は不振極まりないものでした。この結果は予想されたものであり、現有勢力ではいたしかたのないものであるというのが愛知の現状です。しかし、選手個々がベストを尽くしたかどうか、疑問になる選手が多かったことは否めません。「由佳と内藤が出場できなかったらどうなっていたか」「由佳」とは室伏由佳選手であり、どうなっていたかとは優勝の8点がなかった場合の総合結果のことです。大会直前、日常生活の行動にも支障になるような腰痛に見舞われた室伏選手の出場が決定したのは大会前日でした。出場すれば優勝間違いなしの室伏選手ですが、前半の投てきはベストからは程遠いもので、ヒヤリとした場面もありました。しかし、最後は王者の貫禄を見せて今大会唯一の優勝者となりました。“内藤”とは内藤真人選手。北京オリンピック後の故障に苦しんだシーズンで、連続出場していた世界選手権の代表も逃し、相性のいい国体で調子を戻す予定でした。ところが内藤選手も大会直前腰痛に見舞われ、大会当日のウォームアップで出場するかどうか決定しなければならぬ状態でした。懸命の調整で出場したものの、予選では国内の大会では見たことのないプラスでの通過。もう1本走れるか心配した状態で迎えた決勝では、7台目でトップに立ち一時期待を持たせたのですが、本調子から遠いコンディションでは最後まで本来の走りではできませんでした。

しかし、この愛知を代表する両選手の勝負に賭ける執念は、大会後サインをねだる少年選手らの記憶に刻まれたことと思ひます。

ベスト記録を出した選手には賞賛を与え、ベストが出せなかった選手には原因を追究するよう課題を課しました。

国体の沈痛ムードを吹き飛ばしてくれたのはジュニアオリンピックの県代表選手でした。本年度より正式に選抜チームとして強化に取組んできた男子4×100mRチームは大会新記録で全国制覇を果たし、女子も100分の4秒差の2位とリレー王国愛知(表1)のシーズンを締めくくりました。国体方式で総合得点を換算すると愛知は兵庫に次いで第2位です。(表2)これらの選手が再び国体、都道府県駅伝でチーム愛知のユニフォームを着て活躍することを祈念しています。

インフルエンザ感染を懸念して大会直前の合宿を中止するなど、少年選手、とりわけ経験の浅い少年Bの選手に与えた影響は大きかったことと思ひます。

大会期間中、激励に駆けつけてくださった愛知陸協の皆様

様、支援コーチの先生方、深夜まで選手ケアに携わっていただいたトレーナーの皆さん、大会直前交代をお願いした関係チームの監督さん、各選手所属のコーチの皆様には厚くお礼申し上げます。

表1

大会名	男女	種目	チーム	順位	記録
全国高校総体	男子	4×100mR	名古屋	1位	40.75
	男子	4×100mR	中京大中京	2位	40.80
	女子	4×400mR	中京大中京	8位	3.52.04
全国中学選手権	男子	4×100mR	東海	4位	43.53
	女子	4×100mR	長良	4位	48.91
全日本インカレ	男子	4×100mR	中京大	8位	40.42 (愛知登録3名)
	女子	4×100mR	中京女大	5位	48.07 (愛知登録2名)
国体	男子	4×100mR	愛知選抜	5位	40.67
	女子	4×100mR	愛知選抜	7位	46.62
ジュニアオリンピック	男子	4×100mR	愛知選抜	1位	42.35 (大会新)
	女子	4×100mR	愛知選抜	2位	47.97
日本選手権リレー	男子	4×100mR	中京大	8位	40.88 (愛知登録3名)
	女子	4×100mR	中京女大	5位	46.12 (愛知登録3名)
	男子	4×400mR	愛教大	8位	3.14.05 (愛知登録4名)

表2

都道府県	兵庫	愛知	神奈川	静岡	埼玉	大阪	鹿児島	岡山
得点	116	102	85	75	67	52	48	42
順位	1	2	3	4	5	6	7	8

(北村 肇)

記録委員会

初冬を迎え、トラックシーズンから高校駅伝をスタートとして道路競技のシーズンに入りました。第25回名古屋ハーフマラソンでは、日本のハーフマラソンレースとしては最速の1時間を切る59分50秒でのG・ゲディオ選手(日清食品)が優勝。5位までが外国人競技者、6位に日本人トップの大塚良軌(愛知製鋼)が入りました。次年からはさらに全国で注目を集める大会になると予想されます。

各支部記録委員長はじめ各記録委員のご尽力により、県内全てのトラック&フィールド競技会は、エブリバディ・デカスロン in 愛知を最終に愛知陸協、4支部、東海学連主催による112の大会を終了しました。うち愛知陸協が日本陸連へ100大会を公認大会として記録公認申請を済ませることができました(残りの12大会は東海学連主催)。今後の予定は、駅伝・道路競技大会、国際室内棒高跳大会の記録申請。21年1月から12月までの暦年分の記録の再チェック。愛知陸協記録集、1月上旬期限の日本陸連監修の100傑表の作成、陸上専門雑誌社等への提供資料には最大限の注意を払って作成。その後、新記録等を確認し愛知県記録表等の作成。10傑表の完成。再度チェックして印刷発注し、3月上旬に発行の予定です。

前号(第15号)以降に確認した新記録

県新記録

男子 800m 1.48.34 粟津良介(明治大)
スピッツェ競技会(スイス) 7月16日

県高校新

女子 3000m 9.08.44 伊澤菜々花(豊川)
静岡長距離強化競技会(小笠山) 9月6日
七種競技 4895点 河崎梓穂瑠(佐屋)
(14.82-1.55-9.43-25.81:5.33-39.16-2.26.03)
エブリバディ・デカスロン in 愛知(知多) 11月7・8日

県中学新

男子 200m 21.57 河室裕貴(弥富)

尾張陸上競技選手権 (一宮) 10月4日
 4×100mR 42.39 愛知ジュニア選抜
 (伊藤勉・河室裕貴・掛川真・鈴木祐太)
 愛知私学祭オープン (瑞穂) 9月22日
 42.35 愛知選抜
 (秋江洋志・河室裕貴・掛川真・鈴木祐太)
 ジュニアオリンピック (日産スタジアム) 10月25日
 円盤投 52.81 小出拓実 (河和)
 愛知ジュニア (瑞穂) 8月30日

女子 400m 59.20 山田晴帆 (千種)
 スプリントトライアスロン (知多) 11月8日
 100mYH 14.51 谷 優奈 (保見)
 愛知ジュニア (瑞穂) 8月30日
 14.55 谷 優奈 (保見)
 愛知私学祭オープン (瑞穂) 9月22日
 14.23 谷 優奈 (保見)
 ジュニアオリンピック (日産スタジアム) 10月23日
 (岡田 武彦)

学校紹介⑥ 長良中学校 女子4×100mR 県中学新記録ならびに県中総体3年連続優勝



鬼ごっこによるアップ

今回は、女子の4×100mRで県中学新記録を塗り替え、48.68をマークした長良中学校を訪問しました。長良中学校は、昨年に引き続いて2年連続で県中学記録を塗り替えており、今年で女子の4×100mR県中総体3連覇となっています。こうした強さを誇る学校ですから、さぞかし環境の整った中で練習が積み重ねられているのだろうと思って訪問したのですが、予想は完全に裏切られました。グラウンドは狭く(トラックを書く余裕すらなく、短いカーブ区間を含めて直線コースが110mほど取れるだけ)、しかも砂浜かと思われるような劣悪な状態でした。そんな中で県中学新記録を出すからには、何か秘訣があるのだろうと思い、取材に入りました。

訪問した日は土曜日ということで、割と時間が取れる日でした。ですから、トレーニングのほぼ全容を間近に観察することができたと言えます。その中で特に目を引いた点をいくつかご報告します。

まず一つめは、jog→ストレッチといったオーソドックスなアップではなく、鬼ごっこと言ってもよい形で始まったことです。4~5人いる鬼にタッチされると腹筋運動のペナルティーがあり、ペナルティーを消化すると復活できるという形式のようでした。鬼は途中で交代し、多くが一度鬼になるようにしてありました。60人近い部員が効率よく体を温めるにはもってこいの筋力トレーニングを始めとして、14のドリルが次から次へと休みなく続いていきました。部活が始まってから1時間10分の間休憩はなく、一言の私語もないままトレーニングが続いていたのは驚きでした。スタビライゼーションは体幹を鍛えるという点で有効だと顧問の佐橋弘晃先生はおっしゃっていましたが、側転や倒立が入っていてバランス感覚が養われていることの方が私の目をひきました。中学生段階だからなのかもしれませんが、専門的な動きにばかりこだわる動き作りは、一考を要するものなのかもしれません。

次にスティックラダー(と言っても折れたバーの再利用)によるストライドを広げるドリルが行なわれましたが、能力差に合わせた3段階の用意には先生の指示は一言もありませんでした。自分たちでテキパキと用意し、トレーニングが進んでいくのです。この裏には、生徒たちに練習の意味を理解し流れを把握させるなど、自分たちで働けるように仕向けられた佐橋先生のご努力があったものと思われます。このことは、練習の最後に盛り込まれていた30分のフリー練習で見せつけられることとなりました。30分の間何をしていたのか分からずボーッとしてしまう時間ができてしまうのではないかと危ぶんでいたのですが、全くの杞憂でした。バランスボード(机の天板と植樹の支えの廃品を利用)、綱引き、倒立、倒立からブリッジ、側転、砲丸投、メディシンボール投げ、ジャベリックスロー、手押し車競争など、自分たちで工夫をして種目をいくつか入れ換えながら結局は45分程度活発に動き回っていました。フリーだけあって先生が指示を出すことはありませんでしたが、十二分な運動量でした。それだけではなく、スパイクに履き替える間だけが休憩時間という密度の濃い練習のダウンを兼ねているようにも思われました。これだけ密度の濃い練習で故障者は出ないのかとお聞きしたところ、やはりレクリエーション的な内容を取り入れている点が効を奏しているのか、全くと言っていいほどないとのことでした。故障は記録の大きな妨げですので、この点は大いに参考にすべきところでしょう。

もう一つ付け加えておきたいのは、3年生が2人、卒業生が2人(今日は2人でしたが、総勢では5人だとのこと)練習に参加していたことです。高校でも陸上を続けるという3年生は、受験と平行してトレーニングも行なわせるという方針だそうです。卒業生が来なくなるような魅力的な部活だということでもあるのでしょう。こうした上級生が練習を引っ張ったり、助言をしていることも成果の一端のように思われました。

練習後、職員室で更に取材を続けましたが、その中で一番驚いたのは、佐橋先生の練習メニューでした。短距離、跳躍といったように分けることは当たり前ですが、佐橋先生のメニューは一人一人異なるものだったのです。練習の核になるところは同じでも、試合前に練習内容を落として成功する人、落とすすぎると失敗する人など、個人個人の特性に応じて細かく内容が分けられていました。佐橋先生のお話では、生徒をよく見ていけばタイプはつかめるものだったとのことでした。生徒をよく見ておられる分、生徒も先生を信頼しているのでしょう。練習の間での先生と生徒のやりとりを見ていた時に感じた距離の近さも、こうしたことがあってのことだと十分に納得しました。長良中学校は来年も女子の4×100mRは期待できるとのことでしたが、先生と生徒の厚い信頼関係がきっと来季も好記録を生むに違いありません。



スタビライゼーション



フリー練習



佐橋先生への取材

(取材・文責 大西 敏功)

〈新潟国体〉参戦記

★成年女子円盤投

新潟国体を振り返って ミズノ 室伏 由佳

秋の祭典、国体。私の国体デビューは、1994年、高校2年生の時、徳島県で開催された東四国国体でした。この翌年は愛知国体があり、地元国体という素晴らしい経験をしました。愛知県の代表として国体に参加することについて、はじめて出場を果たした高校生の頃はとりわけ憧れの競技会でした。国体参加にあたって、合宿等に参加をさせていただきましたが、多くの先生方にお世話になり、また一人のアスリートとして育てていただいたことが今でも深く胸に残っています。こうした温もりのある愛知代表として、2009年の新潟国体に選出をしていただいた事にとっても嬉しく思い、本番に向けて楽しみな気持ちでトレーニングに取り組みました。

新潟国体5日前、長年の競技生活で患っていた腰痛が発生。その時の状態をご報告するときはとても無念な気持ちでした。もしも大好きな国体に出場できなかったら…。そんなことが頭をよぎりました。幸いにもひどいケガではなかったために、トレーニングを中断し、痛みを取除くことに専念。試合で自分の持ち味が出せるか、不安もありましたが、どうにか出場に至り、優勝をすることができました。長年お世話になってきた地元への恩返しができることをとても幸せに感じ、感謝の気持ちでいっぱいでした。



平成21年10月5日中日新聞より



愛知県選手団

★少年男子共通棒高跳

第2位 山本 聖途 岡崎城西高校

中学の頃から棒高跳びを始めて4年が経ちました。初めは、4mを跳ぶことが目標でした。その頃は、インターハイで入賞するとか、国体で入賞する選手になるなんて思ってもみませんでした。国体では、結果的に優勝は逃したものの、シーズンベストで終わることができ、自分にとって最高の国体となり、充実した高校生活となりました。今回の敗因をしっかりと見つめ直し、この悔しさをバネに、日本ジュニアではベストの跳躍をしたいです。そして、将来は日本の棒高界を引っ張っていきけるような選手になりたいです。

今後も“感謝”の気持ちを忘れず、しっかり練習し、戦っていきたいです。

★成年少年男子共通 4×100mR 5位入賞

第1走 三輪 将之 中京大中京大

国体は、自分にとって初めて全国タイトルを獲った特別な大会です。前回のリレーは2位で、自分の区間で抜かされたので、何としても優勝するという強い気持ちで臨みました。

結果は5位に終わりましたが、幅広い年齢層の中で、たくさんの方を学ばせていただきました。来年以降も国体に出出されるよう、そして愛知に貢献できるよう頑張っていきます。

第2走 田口 博崇 中京大

新潟国体では、4×100mRのメンバーに選んでいただき感謝しています。自分は個人種目ではなく、リレーだけの出場だったので、陸上競技のファイナルを走れたことと、入賞できたことは、自分にとって大きなプラスになりました。また、この大会で走ることにより、たくさんの方の先生方やトレーナーさん達にお世話になり、改めて自分は、多くの人たちに支えられて競技をしているのだと実感しました。国体に出場できてよかったです。



左から渡辺・服部・田口・三輪の各選手

第3走 服部 辰也 中京大

新潟国体の4×100mRに出場し、5位入賞を果たすことができました。しかし、今回愛知県のリレーメンバーは、個人種目に出場した選手全員が入賞したので、十分に優勝を狙えるチームでありました。5位であったことを考えると、非常に悔いが残ります。ただ、入賞できたのは選手一人一人の力だけではなく、サポートや応援をしてくださった人たちのおかげです。今回の経験を生かし、愛知県の陸上競技を盛り上げていきたいと思っています。

第4走 渡辺 将志 名古屋高

今回の国体で、僕は大きく成長できたと思います。先輩たちとリレーを走らせてもらって、たくさんの方の学ぶことができました。実際のレースでは、日本を代表する選手や高校のトップレベルの選手と走ることができ、自分はまだまだ力不足だと感じるのと同時に、もっと強くなりたと思います。今回の国体で学んだことを高校の仲間にも伝え、自分自身はもちろん、これからの競技生活に生かしていきたいです。

★成年少年女子共通 4×100mR 7位入賞

第1走 後藤 香奈 岡崎城西高

今回初めて国体の県代表に選ばれ、5日間を県代表選手として競技することができ、本当に良かったです。7位に入賞することができたのも、コーチの先生方やトレーナーさんたちのサポート、他の選手たちが応援してくれたおかげです。リレーメンバーを信じ、安心して走ることができました。今回のリレーは、一人で走っているわけではないことを強く感じました。選手団の人たちには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

第2走 市川 華菜 中京大

今回の新潟国体では、200mと4×100mRに出場させていただきました。200mでは、自分の力を最大限に発揮することができず、不甲斐ない結果でとても悔しい思いをしました。4×100mRでは、その悔しさをバネに、愛知県チームが丸となり、7位に入賞することができました。県代表として戦うことは貴重な体験で、とても勉強になりました。この経験を生かして次につなげていきたいです。



左から後藤、今井、市川、山田の各選手

第3走 山田 恵里 中京大中京高

今回の新潟国体では、少女女子B100mと4×100mRに出場させていただきました。100mでは、予選で終わってしまったので、リレーでは絶対決勝までいけるよう全力で頑張り、結果は7位でした。決勝という舞台でリレーを走ることができ、とても良い経験ができたし、勉強になりました。また来年も国体に出場できるように、今後も全力で競技をしていきたいと思っております。

第4走 今井沙緒里 中京女子大

新潟国体を振り返ると、急きょ「4×100mRに出場できなかった」とコーチから聞き、はじめは戸惑いましたが、選んでいただいたからには、「個人種目で疲れている人の分も、自分が走るんだ!」という気持ちで新潟に向かいました。予選はプラスで拾われ、勝負の準決勝は着順で入り、決勝へ進むことができました。決勝に出場できることに感謝をし、楽しんで走れました。選手たちは、コーチやトレーナーさんをはじめとした明るい愛知県に支えられ、新潟でトキめくことができました。本当にありがとうございました。

拝啓 神無月・紅葉月

いつしか秋たけなわの季節を迎え、山野の彩りが増し、美しい紅葉が近づいておりますが、愈々、清々しくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

このたび、64th「トキめき新潟国体」において、貴陸協様をはじめ愛知県選手の活躍が目覚ましく、天皇・皇后杯では、愛知県は見事入賞され、謹んでお祝いを申し上げます。

この礼状は、10月8日付で一度は郵送したものの、住所相違のため返送され、そのうえ生憎不在があって受取が遅れたため、時宜を逸してしまいました。愛知県役員選手団の“あたたかいお心遣い”が今も心を捉え、忘れ得ぬものがあり、再送ですが、改めてお礼を申し上げる次第であります。

閉会式終了後は、全国からの役員・選手の皆様におかれては控所で一齐に荷物を整え、帰路を急いでおり、一方の控所に気を取られていて、愛知県役員選手団の皆様が引き揚げた後、忘れ物等の点検でテントの控所に入ったところ、ホワイトボードには、「お世話になりました。ありがとうございます。：愛知陸協」と書かれているのを発見?したときは、何と表現すべきかは俄かには分かりませんでした。が“素晴らしいメッセージ”を下され、ボランティアとして参加していた者として、深い感動と感銘を覚えます。

役目柄、大してお役にも立てず、おもてなしも出来ず、恐縮のきわみに存じておりましたところでしたので、何方か存じませんが、わずか2つの言葉・文章ながら、まさに“金メダル”に値し、写真に収め、終生の“宝物”として永く胸に留めることとし、書中で失礼ですが、ご厚情に対し幾重にも心より感謝申し上げます。

最後となりましたが、“愛知陸協様”の今後ますますのご隆盛を祈念いたします。

略儀 お礼まで。

敬具

平成 21 年 10 月 20 日 錦秋・銀杏が美し。

新潟市 五十嵐卓夫

第64回新潟国体愛知県選手団競技成績一覧表 於：新潟ビックスタジアム

種別	種目	氏名	所属	記録	結果	得点	備考
成年男子	200m	服部 辰也	中京大	21.51	8位	1	
	110mH	内藤 真人	ミズノ	14.04	4位	5	
	800m	栗津 良介	明治大	1.55.12	8位	1	
	3000mSC	加藤 聡	トヨタ自動車	8.51.36	12位		
	10000mW	杉本 明洋	ALSOK 総合警備保障		失格		
成年女子	ハンマー投	久保 浩司	中京大クラブ	61.18	6位	3	
	200m	市川 華菜	中京大	24.76	準決勝7着		
	100mH	山崎由加里	さかえクリニック	14.20	予選6着		
	走高跳	松本明日美	名東高(教員)	1.66	8位	0.33	8位タイが3名
少年男子A	円盤投	室伏 由佳	ミズノ	53.30	優勝	8	
	100m	三輪 将之	中京大中京高	10.68	6位	2.5	6位タイが2名
	400m	壁谷 智之	岡崎高	48.37	準決勝7着		自己新(予選)
	砲丸投	杵本 皓貴	名古屋高	13.37	23位		
	ハンマー投	杵本 皓貴	名古屋高	56.99	9位		
少年男子共通	やり投	小野 顕佳	名古屋高	61.93	8位	1	
	800m	山本 龍	岡崎城西高	1.52.31	6位	3	自己新(決勝)
少年男子B	棒高跳	山本 聖途	岡崎城西高	4.90	2位	6.5	2位タイが2名
	100m	渡辺 将志	名古屋高	10.98	6位	3	自己新(準決勝)
	3000m	小山 裕太	豊川工高	8.38.12	予選8着		
	110mJH	清水 陽平	中京大中京高	14.99	予選5着		自己新
少年女子A	走幅跳	青山 耕也	森孝中	6.50	9位		
	100m	後藤 香奈	岡崎城西高	12.53	予選7着		
少年女子共通	5000m	伊澤菜々花	豊川高	15.53.28	4位	5	大会新
	走高跳	炭 水土里	千種高	1.63	12位		
少年女子B	やり投	高塚 裕子	名城大附高	39.33	22位		
	100m	山田 恵里	中京大中京高	12.76	予選6着		
	1500m	竹内麻里子	中京大中京高	4.34.05	12位		自己新(予選)
成少年男子	100mYH	飯田 美咲	名城大附高	14.85	予選9着		
	4×100mR	三輪 将之 博崇 服部 辰也 渡辺 将志	中京大中京高 中京大 中京大 名古屋高	40.67	5位	4	
成少年女子	4×100mR	後藤 香奈 市川 華菜 山田 恵里 今井沙緒里	岡崎城西高 中京大 中京大中京高 中京女子大	46.62	7位	2	

男女総合(天皇杯) 19位 55.33点 女子総合(皇后杯) 25位 25.33点

関係団体報告

小学生友の会

小学生友の会の活動

- 1 “日清食品カップ”第25回全国小学生陸上競技交流大会の成績
平成21年8月29日(土) 横浜 日産スタジアム
選手22人 総監督 大矢 新吾 指導者・コーチ8人
14種目中 4種目に入賞

男子 4×100mR 8位 51.75
とよた AC (菅・山本・池川・安田)
5年男子 100m 2位 13.16
和田 瑞輝 (田原陸上クラブ)
5年女子 100m 5位 13.70
掛川 栞 (JACとよあけ)
女子 走高跳 8位 1.30
金子 貴絵 (豊橋陸上クラブ)

- ・ 会場が国立競技場(東京)から日産スタジアム(横浜)へ移された。
- ・ 開会式で大橋拓真(千代田橋AC)が選手宣誓を行なった。
- ・ 5年 100m 男子 和田瑞輝 女子 掛川栞の活躍が光った。
- ・ 安藤百福記念賞が大矢新吾(小学生友の会愛知県代表)の永年にわたる友の会運営の功績を賞して贈られた。

- 2 第26回 東海小学生リレー競走大会の成績

平成21年8月30日(日) 岐阜 岐阜メモリアルセンター長良川競技場
5年混合 4×100mR
1位 55.74 田原陸上クラブ 後藤 鈴木 渡会 伊藤
6位 56.87 安城里町 AC 平塚 森下 鈴木 太田
女子 4×100mR
1位 54.05 豊橋陸上クラブ 北河 奈良 村松 中野
3位 54.40 岡崎 JAC 牛越 武山 松本扶 松本莉
男子 4×100mR
1位 52.06 安城 JAC 大崎 善 畑 若杉
8位 57.87 田原陸上クラブ 渡会 西脇 畠山 武田
(大矢 新吾・村上 叡治)

中小体連

陸上王国愛知復活

10月23日(金)～25日(日)に横浜の日産スタジアムで第40回ジュニアオリンピック陸上競技大会が行われました。結果から言いますと、男子入賞11、女子入賞8、大会タイ記録1、大会新記録2という結果でした。とりわけ県選抜チームで臨んだ4×100mRでは、男子が42.35の大会新で優勝、女子が47.97で準優勝、男子B1500mで西山令選手(葵中・2年)が4.04.60で優勝、男子C100mH岩崎聖選手(東海中・1年)が13.84大会新で優勝という好成績を収めることができました。特にトラック種目に関しての強さは際立っており、出場したほとんどの種目で決勝に駒を進め、全国という舞台で堂々と勝負することができたと感じました。では、愛知が全国でどれほどの実力があるのかを具体的に示すために、各県の入賞を男女別で得点計算し、下記の表に独自にまとめてみました。

【男子】

順位	1位	2位	3位	4位	5位	7位	8位
県名	兵庫	愛知	神奈川	三重	福岡 広島	千葉	山形 埼玉
得点	60	58	47	36	29	27	23

【女子】

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
県名	兵庫	静岡	神奈川	愛知	埼玉	大阪	山口	奈良 岡山
得点	55	54	45	39	35	34	32	31

いかがでしょうか。現在、中学の陸上界で力があるとされる兵庫県、神奈川県に肩を並べるほどの実力があるといえるのではないのでしょうか。今回活躍した選手たちが今後さらに大きく成長し、「陸上王国愛知復活」の大黒柱となってくれることを大いに期待しています。

11月14日(土)に愛・地球博記念公園で第58回愛知県中学校駅伝大会が行なわれました。新型インフルエンザの影響で各チームとも選手選考、練習計画に大変苦慮する中で行なわれたわけですが、豊明市立沓掛中学校が男女アベック優勝をしました。女子については5年連続優勝という快挙でした。

最後になりましたが、ジュニアオリンピックの県選抜リレーチームの強化に関してご尽力いただきました強化委員長の北村肇先生、男子監督の丹羽智行先生、女子監督の佐橋弘晃先生、各所属の監督の先生方、保護者の皆様方、また、私学祭、知多愛日秋季大会、名古屋支部選手権にオープン参加させていただきよう配慮してくださいました関係各位の皆様方に厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。(久米 裕朗)

高体連

◎ 10月24・25日の2日間、名古屋市瑞穂公園陸上競技場において東海高校新人大会が行なわれました。県内選手の成績は別表(P.14・15)のとおりです。一般的に愛知県勢も頑張ったと思いますが、昨年に比べ静岡県勢の力にやや押されたように感じました。

東海4県の持ち回りで、今年度は地元開催となりました。愛知陸上競技協会ははじめ多くの方々に協力いただき、無事大会を終了することができました。ここにあらためまして厚く御礼申し上げます。

この大会は、来年度の東海高校総体の目安となる大会です。東海高校総体は、場所も同じく名古屋市瑞穂公園陸上競技場で行なわれます。この中から、一人でも多くの選手が、本年7月28日から沖縄で行なわれる、全国高校総体に出場できるよう期待しています。

◎ 11月1日には、知多運動公園陸上競技場を発着点として、県高校駅伝競走大会が開催されました。大会結果は別表のとおりです。男子優勝の豊川工は見事に12年連続12回目の優勝を達成しました。また、女子優勝の豊川高校は3年連続3回目の優勝を全選手区間賞というすばらしい記録で達成しました。この両校は、12月20日に京都市で行なわれる全国高校駅伝競走大会に、愛知県代表として出場しました。

知多市で会場をお借りして県高校駅伝競走大会を開催するようになって、今年で30年という節目の大会になりました。そこで、この間毎年お世話になっております、知多市・知多警察署・知多三四会(コース沿線の各企業の組合)

及び愛知陸協の江藤照雄氏に、愛知県高体連および毎日新聞社より感謝状の贈呈をさせていただきました。また、今後ともよろしくお願い申し上げます。

◎ 11月22日に三重県松阪市の三重高校前を発着点として、東海高校駅伝競走大会が開催されました。県内参加校の成績は別表のとおりです。男女とも各6校ずつの出場のうち、男子は3校が入賞、女子は豊川の3年連続3回目の優勝を始め4校が入賞しました。区間賞も、男子は豊川工の4区正木翔・5区西尾尚也・7区小山裕太の3選手が、女子は1区で時習館の鈴木亜由子選手、豊川の2区鈴木美乃里・3区鷺見咲也香・4区伊澤菜々花の3選手がそれぞれ区間賞を獲得しました。また、残念ながら入賞できなかった学校も、あとほんの少しのところまでということで、全体として愛知県勢はよく頑張ったと思います。来年は愛知県開催のため、知多市で東海高校駅伝が開催されます。

(大島 修)

高体連定通部

「こんな活動をしています」

大型台風、新型インフルエンザの影響を心配したが、山本衣津香(豊橋)の選手宣誓で秋季大会が始まった。全三



河・全尾張の大会を合併した大会も今年で27回を数える。参加選手は70名と少数であるが、来年度の全国大会を見据えての前哨戦となっている。少数であるがゆえに、選手自ら用器具等の準備・後片付けに全員で取り組む。競技ができること、審判員や補助員に感謝の気持ちを持って大会へ臨むことを重視している。また、競技に慣れていない選手には教育的配慮で技術的な指導も見られる。

大会結果から来年度を考えると、力のある選手が例年に比べて心配な状況にある。全国大会で入賞に手が届く記録を出した選手は、相羽岳志(科技刈谷・400mH)、谷川徹(豊橋・3000mSC)、水谷樹(科技刈谷・円盤投)、矢城琴美(安城・400m・800m)、鈴木優華(科技刈谷・200m)、當間くみこ(碧南・円盤投)である。男子総合は科技刈谷が9連覇、女子総合は豊橋が2年連続3回目の優勝を飾った。

定通の公式試合はこの大会が最後で、冬季トレーニングに入る。
(松橋 政人)

陸上競技場めぐり

知多運動公園陸上競技場の歴史②

当競技場が日本陸連公認第2種陸上競技場になったのに伴い年々競技会が増えて、小学校・中学校・高校・クラブ JAC 大会の県予選会が開催されるようになりました。中でも定時制大会は、昭和59年度から知多で開催され、今年度で26回目になりました。全国定時制大会の総監督松橋政人先生のご指導お骨折りをいただき、愛知県チームは過去に何度も優勝され、今年度もよい成績を収めました。

多くの大会が開催されておりますが、現知多市長の加藤功氏よりももう少し大きい大会を誘致できないかとお話があり、東海学生競技会・県高校駅伝・エブリバディ・デカスロン in 愛知を誘致することができました。一番苦労したのは県高校駅伝で、経過は次のようです。

県高校駅伝は、知多市に来る前は、豊橋市の神野埠頭公園を発着点として開催されていましたが、海岸沿いで風が強く記録の出にくい場所でした。そこで、当時第二愛知工業高勤務の高体連陸上部長だった伊藤紀久夫先生から知多市で高校駅伝を開催できないかと要請がありました。当時スポーツ課長であった現加藤功市長から全面協力するとの返事がありました。それから伊藤紀久夫先生と毎日のように、知多名管道路のコース上の距離計測を開始して、当時としてはめずらしいポラロイドカメラで道路を撮影して資料を作成し、愛知警察本部交通課、東海警察署交通課に何度も足を運びました。許可がおりたものの、それからが大変でありました。許可がおりてから、名管道路の企業にあいさつ廻りなどしておったところ、三四会の幹事会社である中電火力知多の総務次長で、のちの愛知陸協記録部長となった高木景氏に知多市企業のまとめ役をやっていただき、随分助けていただきました。昭和55年の31回大会から引き継いだ男子は今年度で60回大会となり、知多市に来てからこの大会も30回目になりました。また女子は第1回大会が平成元年度に行なわれ、今年度で21回目になりました。このコースでの記録も毎年更新され、楽しみにしております。また京都で年末に行なわれる全国高校駅伝競走大会で愛知県代表校が優勝したり、上位入賞をすることも多くなり、このコースの担当者として、選手たちに心からお礼申し上げます。今後も愛知代表として優勝めざして頑張ってください。

この大会は平成5年～平成9年までNHKラジオ実況中継があり、この時も忙しかった思い出があります。コースの1kmごと、中間点、あと1kmの計測、電波検査アンテナ設定場所の世話などがあり大変でした。この間、知多市で開催されていますが、知多名管道路の企業会社群のご協力があり、毎年開催することができ感謝申し上げます。中にはトイレ使用を認めていただいた会社で水道の蛇口等を破損したりして、ご迷惑をお掛けしたこともありました(ご迷惑をおかけする度に稲垣裕先生と謝りに行っております)が、翌年も使用させていただき感謝しております。また、この大会前々日迄に毎年各企業が道路を清掃していただいていることをご報告しておきます。各選手は企業の皆様方がご協力していただいているので、感謝の気持ちを持って走ってください。

エブリバディ・デカスロン in 愛知も今年度で14回目になりましたが、その内知多で開催されるようになって12回目になりました。毎年全国から多数の選手たちが来てくださり、感謝申し上げます。これもひとえに本田陽先生・谷政人先生・大橋一幸先生とアテネ五輪代表で陸上七種競技の国内第一人者である中田有紀さんを初め、アジア大会出場選手、全国大会出場選手にご指導いただき、大会を盛りあげてくださり感謝しております。

今後とも知多運動公園陸上競技場をご利用いただければ幸いです。

(江藤 照雄)



マスターズ陸上

心豊かな長寿社会への貢献役

9月19日(土)～21日(祝・月)の3日間、第30回記念国際・全日本マスターズ陸上競技選手権大会を瑞穂公園陸上競技場で開催し、参加された選手や愛知陸協を始めとする関係された皆さまのお蔭で、無事終了いたしました。



1573名が集う

思い起こせば、平成17年12月25日の愛知マスターズ理事会で招致を決定以来、足掛け4年、平成19年8月10日の愛知陸協理事会で主管の承諾をいただいてから2年余。愛知マスターズの会長以下理事全員が、全国大会を運営した経験がないことから、途中、会場の変更などの紆余曲折があり、皆さまにご迷惑とご心配をお掛けしました。愛知陸協の國分一郎前理事長を始め、各委員長のご指導のもと、できる限りの準備を重ねてまいりました。



絶妙なバトンパス

一部、北陸上競技場の投てき競技の進行が遅れたことをはじめとして、競技運営において若干の問題が生じました。しかし、迅速かつ適切に処理され、天候に恵まれて3日間ともほぼ予定された競技時間内に終了することができました。

大会を終え、結果として皆さまがどのような評価をされているかは判りませんが、比較的順調に運営されたのではないかと思います。また大会期間中3人の選手が入通院されましたが、現在は回復されております。その他、大会運営全体も概ね順調に終了できたのではないかと考えています。参加された選手や関係された皆さまにこの紙面をお借りして改めて、感謝申し上げます。

記録の面では世界新記録3、日本新記録39、日本タイ記録1、大会記録74、大会タイ記録4、が出ており、大いに盛り上がった大会となりました。愛知の選手の成績を見ますと、男子重量投M55で中村勉(甚目寺町)が日本新記録で1位を始め、32種目で1位を獲得しています。中でも金子葉子(名古屋市)がW45の60m、100m、200mで1位のほか、4×100mリレー女子共通の1位を合わせて4冠を達成しました。また、山田博嗣(豊田市)がM65の砲丸投、ハンマー投、重量投、中山淳子(名古屋市)がW50、800m、1500m、5000m、加藤敦子(豊川市)がW60の円盤投、ハンマー投、重量投と3選手が3冠を獲得しています。



渾身の一投

最後に、この大会を目の前で見られた競技役員の中で、血が騒ぎ出した方もみえるのではないのでしょうか。また、東海学連の競技補助員やボランティアの中で1年でも長く競技を続け、今後の大会に参加していただける選手が出てくれば、この大会を開催した意味が更に大きなものになると思います。

人生は長い、ゆっくり生涯現役で楽

しまししょう！マスターズ陸上！

(佐野 昭二)

愛知陸協 OB 会

OB会は、長い間、競技会の運営や選手強化などに活躍された60才以上の方々に構成し現在136名の会員で活動しています。

会員総会、日帰り旅行、新年懇親会などの行事で会員の親睦と交流をはかっています。

去る10月20日、34名の参加で遊覧船で三方五湖めぐりを楽しんだ後、若狭湾バザール千鳥苑にてカニづくしの料理を賞味し、北陸路のお土産「小牧かまぼこ」に立寄り、珍味蒲鉾を試食し、長浜の古い街並みのレトロと洋風建築と現代的でおしゃれなお店を散策し、帰路につきました。

バスの中では、ガイドさんの型やぶりの楽しいお話と、決して上手とは言えない唄を数々披露され、笑い声が絶えない楽しい旅でした。

この次は、尾張支部の担当で、一泊の新年懇親会を予定しています。1月26日～27日の日程で開催しますので、一人でも多くの皆さまがご参加くださいますようお願いいたします。

(村瀬雄一郎)

競技会報告

第23回愛知県小学生陸上競技選手権大会 2009年11月3日(火・祝)名古屋市瑞穂公園陸上競技場

少年

種目	1位	2位	3位
4年50m	柵木 友幸 7.55 西尾わかつる	山内健士郎 7.63 T・S・M	市野 皓也 7.65 成岩 SC 陸上
5年100m	永谷 礁汰 12.93 三河安城クラブ	和田 瑞輝 13.16 田原陸上クラブ	松下 治樹 13.64 豊橋陸上クラブ
6年100m	山本 幹也 12.42 とよた AC	善 大輝 12.73 安城 JAC	松村 義樹 12.74 AC 一宮
5年80mH	柴田 有仁 14.49 JAC とよあけ	湯原 諒真 14.74 安城 JAC	櫻井 亮介 15.45 安城北部 AC
6年80mH	新垣 幸治 13.51 なごや陸上クラブ	山手 陸 13.59 作野 AC	加藤 誠巨 13.99 岡崎 JAC
6年4×100mR	とよた AC 50.72 池川 雄大 山本 幹也 安田 慎平 永治 和義	安城ジュニア陸上クラブ 52.64 稲垣 晃隆 善 大輝 大崎 慎平 若杉 俊佑	AC 一宮 53.32 五十嵐理貴 松村 義樹 府島 誠也 新垣 舜大
5年走高跳	平岩 崇也 1.25 いっしき陸上	小林 颯 1.20 今池 AC	後藤 駿弥 1.10 豊橋陸上クラブ
6年走高跳	大橋 拓馬 1.40 千代田橋 AC	岩上 拓海 1.40 桜町クラブ	杉本 峻也 1.35 安城北部 AC
4年走幅跳	中谷 英人 4.19 JAC 大府	石田 匠 4.02 JAC 武豊	天野 瞳汰 3.99 新城陸上教室
5年走幅跳	建部 歩 4.23 新城陸上教室	宮田 龍樹 4.23 知立ジュニア	後藤 勇哉 4.04 布袋陸上クラブ
6年走幅跳	井田 光紀 4.94 なごや陸上クラブ	長谷川文哉 4.66 知立ジュニア	岩崎 悠利 4.65 いっしき陸上
5年ソフトボール投	マティエンゾ クリスティ アンディオル 69.30 大須 AC	丸山 拓也 56.03 桜町クラブ	磯村 匠 47.10 明和 JAC
6年ソフトボール投	山本 隼平 63.66 JAC あつみ	高木 翔太 53.08 錦町陸上	大岩 玄弥 52.52 豊丘 AC
※二種競技 A	神近 洋佑 1308 JAC 大府	新美 泰地 1306 YOUKI 陸上	坊野 晃大 1271 JAC 武豊
※二種競技 B	高須 翔生 1586 安城北部 AC	牧 澁己 1508 蒲郡クラブ	木戸 峻太 1453 JAC あつみ

※二種競技 A (100m-走高跳) 二種競技 B (100m-走幅跳)

少女

種目	1位	2位	3位
4年50m	川端 真奈 7.76 安城里町 AC	長谷川愛樹 7.80 なごや陸上クラブ	河合 穂波 7.88 田原陸上クラブ
5年100m	掛川 栞 13.50 JAC とよあけ	樋口 香華 13.68 安城 JAC	後藤 玲奈 13.89 安城 JAC
6年100m	武山さくら 13.30 岡崎 JAC	牛越 智子 13.58 岡崎 JAC	北川 瑠菜 13.76 安城 JAC
5年80mH	鈴木 瑞希 14.35 なごや陸上クラブ	加藤 美沙 14.88 豊橋陸上クラブ	中村 奈緒 14.98 作野 AC
6年80mH	岩村有里子 13.42 新城陸上教室	松井 紗良 13.43 豊橋陸上クラブ	兼松菜々子 13.88 なごや陸上クラブ
6年4×100mR	豊橋陸上クラブ A 54.79 北河紗那枝 中野 真琴 奈良 朋世 村松 風香	安城ジュニア陸上クラブ 55.25 井上 奈南 野村 彩加 樋口 円華 北川 瑠菜	とよた AC 56.80 大山 稜華 一ノ瀬安葉 加藤 遥香 椎葉 優
5年走高跳	稲垣 聡乃 1.25 安城北部 AC	平林 綾夏 1.25 JAC 大府	村原由樹子 1.20 作野 AC
6年走高跳	梶野 香子 1.40 なごや陸上クラブ	金子 梓 豊橋陸上クラブ 1.35 大久保珠美 新田 TFC	
4年走幅跳	吉村 月乃 3.81 片葩 AC	南野 有紀 3.66 とよた AC	田中 瑠南 3.59 片葩 AC
5年走幅跳	加納 礼菜 4.26 なごや陸上クラブ	明星 光 4.22 とよた AC	熊崎 円香 4.08 布袋陸上クラブ
6年走幅跳	阿部 夏子 4.61 なごや陸上クラブ	亀田 夏帆 4.39 JAC とよあけ	日比野由奈 4.16 JAC 大府
5年ソフトボール投	榊原 梨子 40.60 いっしき陸上	守屋 紀香 38.69 青山 SC	常盤みなみ 38.61 安城北部 AC
6年ソフトボール投	奈良 朋世 49.36 豊橋陸上クラブ	桂山 李湖 46.63 へきなん陸上	山本 楓 42.57 安城里町 AC
※二種競技 A	金子 貴絵 1541 豊橋陸上クラブ	村瀬 花菜 1528 なごや陸上クラブ	門脇 実里 1439 JAC 大府
※二種競技 B	中野 真琴 1765 豊橋陸上クラブ	椎葉 優 1462 とよた AC	鋤柄 友香 1419 豊橋陸上クラブ

※二種競技 A (走高跳-100m) 二種競技 B (走幅跳-100m)

男女混合

種目	1位	2位	3位
4年4×100mR	岡崎 JAC 1.00.13 金田 和華 宮園 雛子 守山 力也 宮崎 智矢	豊橋陸上クラブ A 1.00.24 久野 景子 土方 若菜 筒井 幹太 外山 零	田原陸上クラブ A 1.00.81 宮川 真優 河合 穂波 緒方 空哉 仲井 陽大
5年4×100mR	安城ジュニア陸上クラブ 54.77 後藤 玲奈 樋口 香華 伊藤 廉 川崎ライアン	田原陸上クラブ 55.84 後藤 有砂 増山 彩音 伊藤 壮太 和田 瑞輝	三河安城クラブ-A 57.61 木俣 結子 坂倉 和 杉下 慶 水谷 礁汰

第40回ジュニアオリンピック陸上競技大会
2009年10月23日(金)～25日(日) 日産スタジアム

男子

種目	順位	氏名	学校名	記録
A	100m	4 鈴木 祐太	本郷	11.03
	200m	棄権 河室 裕貴	弥富	
	3000m	18 金尾 圭祐	東港	9.21.52
	110mJH	予選 角田 諒一	豊正	19.07
	走高跳	6 坂本 憲哉	一宮奥	1.89
	走高跳	14 榊原 潤也	豊橋陸上クラブ	1.83
	砲丸投	25 山下 響平	守山西	12.42
B	100m	2 掛川 真	豊明栄	11.40
	1500m	1 西山 令	葵	4.04.60
	110mH	6 三浦 成皓	富貴	15.50
	110mH	4 山本 健太	武豊	15.34
	走幅跳	13 平林 卓磨	東浦	6.16
	走幅跳	17 宮崎 恭庸	六ツ美北	6.02

C	100m	7 秋江 洋志	AC 一宮	11.96
	1500m	11 稲葉 康太	葵	4.24.88
	1500m	予選 小島 勇人	AC 一宮	4.34.06
	1500m	予選 木村 聡	河和	4.29.59
	1500m	予選 谷口 跳馬	香掛	4.34.03
	100mH	1 岩崎 聖	東海	13.84 NGR
	走幅跳	5 渡邊圭一郎	富士	5.92
AB	砲丸投	19 吉戸 鉄人	豊橋陸上クラブ	12.99
	円盤投	4 小出 拓実	河和	51.53
	ジャベリックスロー	15 酒井 秀	萩山	57.54
4×100mR	1	愛知選抜 秋江 洋志 (AC 一宮) 河室 裕貴 (弥富) 掛川 真 (豊明栄) 鈴木 祐太 (本郷)	42.35 NGR	

女子

種目	順位	氏名	学校名	記録
A	100m	3 森 佑紀那	長良	12.48
	200m	5 松井香保里	長良	25.78
	3000m	予選 西川かりん	富貴	9.58.19
	100mYH	4 谷 優奈	保見	14.23
	走高跳	15 榊原小侑希	河和	1.58
B	100m	2 北野 有紀	愛知淑徳	12.60
	1500m	5 堀 舞花	祖父江	4.32.18
	100mH	5 萩原加奈子	豊橋陸上クラブ	14.75
	走幅跳	12 石川加奈子	知多 TC	5.13
C	砲丸投	10 岡 千波	知多	12.24
	100m	準決勝 河合 詩菜	安祥	13.26
	800m	2 鷺見 梓沙	香掛	2.16.42
	100mH	予選 吉田有美香	滝	17.85
	走幅跳	21 山下 瑞季	亀崎	4.79
	走幅跳	29 伊藤 南侑	とよた AC	4.68
	砲丸投	9 中村 彩花	豊橋陸上クラブ	10.29
AB	円盤投	40 松尾 阿樹	豊橋陸上クラブ	22.70
	ジャベリックスロー	27 森口 芹菜	上郷	34.92
4×100mR	2	愛知選抜 河合 詩菜 (安祥) 北野 有紀 (愛知淑徳) 松井香保里 (長良) 森 佑紀那 (長良)	47.97 NGR	

平成 21 年度愛知愛知高等学校新人対校陸上競技大会
平成 21 年 9 月 26 日 (土)・27 日 (日)
名古屋市瑞穂公園陸上競技場

[男子] (3位以内入賞のみ GR:大会新)

種目	1位	2位	3位
100m	浅野 伸明 10.93 栄徳	渡辺 将志 10.94 名古屋	大野 将士 10.98 中京大中京
200m	浅野 伸明 21.98 栄徳	林 雅人 22.18 一宮	河合 泰知 22.30 岡崎城西
400m	山田 涼馬 48.55 一宮	壁谷 智之 48.69 岡崎	松井 湧哉 49.28 滝
800m	犬飼 正雄 1.55.97 起工	今瀬 和哉 1.56.62 春日井	山田 涼馬 1.58.10 一宮
1500m	山本 健太 4.02.49 豊川	犬飼 正雄 4.03.71 起工	山口 哲司 4.03.97 福江
5000m	山口 哲司 14.58.13 福江	原塚 大貴 15.04.44 弥富	石川 篤 15.04.45 刈谷北
110mH	天野 涼太 14.80 岡崎城西	久永 貴大 15.25 岡崎西	里地 勇飛 15.38 中京大中京
400mH	木全 広大 53.03 愛工大名電	石原 颯 53.40 津島	山田 瑞輝 53.57 春日井
3000mSC	平松 大輔 9.37.98 豊川	藤井 逸人 9.38.04 岡崎	江口 卓弥 9.38.54 明和
5000mW	木村 洋介 22.38.55 弥富	木村 曉人 23.01.67 愛工大名電	橋本 直 24.15.58 半田

4×100mR	中京大中京 41.90 GR 瀬戸 健太 大野 将士 西垣 佳哉 里地 勇飛	岡崎城西 42.06 伊井 京平 河合 泰知 長坂 俊希 天野 涼太	一宮 42.21 八橋 孝幸 林 雅人 山田 涼馬 戸松 孝文
4×400mR	一宮 3.21.86 浅井 聖也 山田 涼馬 八橋 孝幸 林 雅人	西尾 3.23.31 竹屋 壮修 永田 卓也 樋口 大慈 鳥山 大輔	春日井 3.23.76 今瀬 和哉 山田 瑞輝 梶浦 一輝 丹羽 康介
走高跳	糟谷 隆明 1.98 中京大中京	澤田 裕貴 1.98 豊川	山口貴由樹 1.95 横須賀
棒高跳	近田 竜雅 4.70 中京大中京	榎 将太 4.60 岡崎城西	折田 尚也 4.40 三好
走幅跳	酒谷 昇吾 7.11 名古屋	松原 瑞貴 6.93 名城大附	南 晋太郎 6.73 三好
三段跳	近田 竜雅 13.82 中京大中京	佐藤 貴弘 13.61 愛工大名電	鈴木 貴也 13.53 岡崎城西
砲丸投	清水 大樹 13.77 春日井商	松井 英昭 13.55 名古屋	白石 健太 13.35 名古屋
円盤投	石原 勇人 36.60 長久手	武藤 厚志 36.06 愛工大名電	清水 大樹 35.83 春日井商
ハンマー投	小林 連 45.28 名古屋大谷	墨 訓熙 44.79 起工	堀内 大輝 44.18 津島北
やり投	木原 拓馬 53.77 半田	河合 龍也 52.20 瑞陵	高島 佑典 50.75 名古屋

走幅跳	布施 和花 5.55 至学館	天野 未理 5.39 光ヶ丘女	河室 成美 5.31 名城大附
砲丸投	近田 茜 11.95 名城大附	高橋 奈美 10.73 至学館	竹内 絵理 10.40 至学館
円盤投	太田 奈穂 34.41 光ヶ丘女	近田 茜 33.84 名城大附	中島明日香 30.35 刈谷北
やり投	高塚 裕子 43.76 GR 名城大附	大島 若奈 40.57 豊田	兼松 幸代 37.30 瑞陵

女子総合成績

部 門	順 位	学校名	得 点
総 合	優勝	至学館	62 点
	2 位	中京大中京	46 点
	3 位	瑞陵	37 点
トラックの部	優勝	中京大中京	46 点
	2 位	至学館	44 点
	3 位	瑞陵	27 点
フィールドの部	優勝	名城大附	21 点
	2 位	至学館	18 点
	3 位	光ヶ丘女	18 点

第12回東海新人陸上競技選手権大会
2009年10月24日(土)・25日(日)
名古屋市瑞穂公園陸上競技場

男子総合成績

部 門	順 位	学校名	得 点
総 合	優勝	名古屋	38 点
	2 位	中京大中京	36 点
	3 位	岡崎城西	34 点
トラックの部	優勝	一宮	26 点
	2 位	岡崎城西	21 点
	3 位	中京大中京	16 点
フィールドの部	優勝	名古屋	26 点
	2 位	中京大中京	20 点
	3 位	起工業	14 点

[男子] (3位以内入賞・県分のみ GR:大会新)

種 目	順位	氏 名	学校名	記 録
100m	1	浅野 伸明	栄 徳	10.78
200m	1	浅野 伸明	栄 徳	21.57 GR
	2	田村 朋也	名古屋大谷	21.64
	3	林 雅人	一 宮	21.65
400m	2	山田 涼馬	一 宮	48.70
1500m	2	滝本 無限	愛 知	4:03.20
5000m	3	山口 哲司	福 江	15:08.15
110mH	1	天野 涼太	岡崎城西	15.06
400mH	1	木全 広大	愛工大名電	52.89
	2	山田 瑞輝	春日井	53.52
	3	石原 颯	津 島	53.67
3000mSC	3	江口 卓弥	明 和	9:35.46
5000mW	1	木村 洋介	弥 富	22:32.42
	3	木村 暁人	愛工大名電	22:50.09
4×100mR	1	岡崎城西		41.48
走高跳	1	川端 哲矢	岡崎城西	1.99
	3	糟谷 隆明	中京大中京	1.93
棒高跳	2	近田 竜雅	中京大中京	4.80
走幅跳	1	松原 瑞貴	名城大附	7.04
	2	酒谷 昇吾	名古屋	7.00
	3	南 晋太郎	三 好	6.84
砲丸投	3	松井 英昭	名古屋	14.28
やり投	3	木原 拓馬	半 田	56.15

[女子]

種 目	1 位	2 位	3 位	
100m	船坂 実来 12.37 至学館	山田 恵里 12.53 中京大中京	家田 知佳 12.71 至学館	
200m	船坂 実来 25.46 至学館	木引悠起子 25.69 名女大	山田 恵里 25.73 中京大中京	
400m	木引悠起子 56.76 名女大	竹内麻里子 57.91 中京大中京	松下紗矢香 58.23 瑞陵	
800m	竹内麻里子 2:12.74 GR 中京大中京	井口 智景 2:18.24 豊橋東	鈴木香奈子 2:18.53 瑞陵	
1500m	清田 真央 4:33.21 中京大中京	鈴木 萌未 4:33.22 愛知淑徳	中根 実来 4:38.08 中京大中京	
3000m	清田 真央 9:56.63 中京大中京	鈴木 萌未 9:56.66 愛知淑徳	岩崎美希奈 10:02.68 西尾	
100mH	大谷友梨恵 14.65 至学館	飯田 美咲 14.68 名城大附	河崎梓穂璃 14.84 佐屋	
400mH	大谷友梨恵 1:02.39 至学館	菅田 真智 1:05.08 瑞陵	浅井ちなみ 1:06.19 光ヶ丘女	
3000mW	山本那津紀 14:51.60 豊川工	松本真由美 14:52.23 至学館	浜本 桂 15:34.66 千種	
4×100mR	愛知 49.23 堀 このみ 熊澤 もも 山田信乃以 岩田 麻衣	中京大中京 49.29 西川 彩乃 山田 恵里 兼子あさみ 竹内麻里子	名城大附 49.34 加藤 千里 飯田 美咲 河室 成美 片山依瑠美	
	至学館 3:56.65 船坂 実来 宮島はづき 糟谷 知世 大谷友梨恵	瑞陵 3:58.06 横井 葵 松下紗矢香 鈴木香奈子 菅田 真智	豊橋東 3:59.50 大羽 杏奈 白井 香澄 林 祐名美 井口 智景	
	走高跳	北島 茉璃 1.65 瑞陵	佐藤 絢音 1.62 愛知	佐藤 菜南 1.59 向陽

[女子]

種 目	順位	氏 名	校 名	記 録
100m	2	船坂 実来	至学館	12.30
200m	3	船坂 実来	至学館	25.20
400m	1	木引悠起子	名女大	56.63
800m	1	竹内麻里子	中京大中京	2:13.06 GR
	3	鈴木香奈子	瑞 陵	2:19.03
1500m	2	河内屋聡子	旭 野	4:40.31
	3	山下由都季	至学館	4:42.90
3000m	3	岩崎美希奈	西 尾	10:03.34
100mH	2	大谷友梨恵	至学館	14.42
400mH	1	大谷友梨恵	至学館	1:00.88 GR
3000mW	3	松本真由美	至学館	14:32.55
4×400mR	1	至学館		3:51.95 GR
走高跳	1	佐藤 菜南	向 陽	1.64
	2	北島 茉璃	瑞 陵	1.61

走幅跳	2	布施 和花	至学館	5.44
砲丸投	3	近田 茜	名城大附	11.86
やり投	1	高塚 裕子	名城大附	45.83 GR

**第22回全国スポーツ・レクリエーション祭宮崎大会
愛知県代表選手成績結果 (1位のみ)
平成21年10月18日(日)~20日(火)**

氏名	住所地	年齢クラス	出場種目	記録
井上 淑	名古屋市	M75	1500m	6.0709
鈴木 一郎	豊田市	M71	1500m 3000m	5.39.74 12.09.25
四戸 光男	豊田市	M65	200m 400m	28.97 1.06.59
加藤 吉博	東海市	M65	800m	2.39.52
久野 光雄	知多市	M50	400m	56.81
渡邊彌美子	知立市	W70	1500m 3000m	6.51.75 14.03.66
山本 靖子	豊田市	W56	走幅跳	3.83
宮崎 祿子	知立市	W54	砲丸投	7.66
木村 和代	知多市	W51	走高跳	1.15
八代香津子	愛西市	W45	100m やり投	14.30 32.97
金子 葉子	名古屋市	W44	100m 200m	13.39 27.95
長坂 恵子	豊田市	W41	1500m	5.02.67

混合スウェーデンリレー R

木村和代・渡辺和生・金子葉子・牧 良光 2.22.98

女子4×100mR

木村和代・山本靖子・八代香津子・金子葉子 57.45

第58回愛知県中学校駅伝大会記録

平成21年11月14日(土) 愛・地球博記念公園

[男子] 距離約18km (6区間) [女子] 距離約12.0km (5区間)

順位	男子		女子	
	学校名	タイム	学校名	タイム
1	豊明市立沓掛	59.17	豊明市立沓掛	41.55
2	豊橋市立石巻	59.31	武豊町立富貴	42.51
3	小牧市立北里	59.39	豊橋市立高豊	43.12
4	岡崎市立葵	59.45	稲沢市立祖父江	43.15
5	豊川市立東部	59.46	岡崎市立竜海	43.40
6	岡崎市立六ツ美北	59.56	田原市立田原	44.5
7	岡崎市立竜海	59.57	豊橋市立豊岡	44.5
8	豊川市立西部	1.0.20	岡崎市立南	44.5

平成21年度愛知県高等学校駅伝競走大会

男子第60回・女子第21回全国高等学校駅伝競走大会愛知県予選会

平成21年11月1日(日) 知多運動公園陸上競技場一

市道北浜金沢線 (男子42.195km・女子21.0975km)

順位	男子		女子	
	学校名	タイム	学校名	タイム
1	豊川工	2.10.34	豊川	1.08.21
2	豊川	2.11.41	中京大中京	1.14.28
3	弥富	2.13.40	愛知淑徳	1.15.41
4	愛知	2.14.20	豊川工	1.16.06
5	岡崎城西	2.14.33	光ヶ丘女子	1.16.07
6	岡崎	2.15.08	時習館	1.16.20

男子第58回・女子第20回東海高等学校駅伝競走大会

平成21年11月22日(日)

男子:三重高校前~飯南町赤滝バス停(7区間:42.195km)

女子:三重高校前~大河内ウエムラ住器(5区間:21.0975km)

順位	男子		順位	女子	
	学校名	タイム		学校名	タイム
2	豊川工	2.08.25	1	豊川	1.09.32
4	豊川	2.09.10	6	中京大中京	1.12.53
10	愛知	2.11.47	7	豊川工	1.12.57
11	岡崎	2.12.12	9	愛知淑徳	1.13.58
12	弥富	2.12.39	11	光ヶ丘女子	1.14.27
13	岡崎城西	2.13.39	15	時習館	1.15.24

2009名古屋ハーフマラソン

2009年11月23日(月・祝)

瑞穂公園陸上競技場付属公認ハーフマラソンコース

成績 (4位以下は本県分で順位・氏名のみ 26位以下省略)

男子の部

- 1 ガトゥニゲディオ 日清食品グループ 0.59.50 大会新
- 2 ワンジュキジャコブ 愛知製鋼 1.01.30
- 3 サムエルドゥング 愛知製鋼 1.01.32
- 6 大塚 良軌 9 糟谷 悟 10阿部 哲史
- 12山本 芳弘 13阿宗 高広 15藤井 輝
- 16大関 喜幸 17上條 記男 18浅羽 慶彦
- 19坂井 俊介 21佐藤 彰浩 22江本 悟司

女子の部

- 1 ジュリアモンビ ユニバーサルエンターテイ 1.10.35
- 2 松野 真帆 中京女子大学 1.19.12
- 3 加納 佐知子 関体協 1.21.52
- 4 光田 李香 5 本庄 愉美 6 青戸 敦子
- 7 加古 光江 8 風岡さやか 10中山 淳子
- 11林 麻美 12横井 仁香 13森 郁恵
- 15下川 友美 16徳永 絢子 17影山 沙樹
- 19遠松 純子 20吉田 文子 21相澤 有紀
- 22中原 明美 23加藤 一美 24梅原 恵子

第4回愛知県市町村対抗駅伝競走大会

2009年12月5日(土) 愛・地球博記念公園

順位	市の部			町村の部		
	市	部	タイム	町	村	部
1	豊橋	1.34.09	三好	1.39.55		
2	名古屋	1.35.56	武豊	1.41.22		
3	豊田	1.36.19	東浦	1.42.05		
4	田原	1.37.17	小坂井	1.42.58		
5	岡崎	1.38.04	阿久比	1.45.10		
6	豊川	1.38.45	幸田	1.46.43		
7	安城	1.39.40	吉良	1.46.51		
8	知多	1.39.52	設楽	1.47.34		



豊橋市チーム



三好町チーム

区間賞 (○数字は区間を示す)

市の部

- ①堀 舞花 (稲沢)
 ②山本 修平 (豊橋)
 松本 淳 (東海)
 ③松永 光雄 (東海)
 ④岩崎 美波 (西尾)
 ⑤木下 雅裕 (知多)
 ⑥飯島 康介 (蒲郡)
 ⑦大南 博美 (刈谷)
 ⑧鈴木亜由子 (豊橋)
 ⑨岩永 嘉孝 (豊橋)

町村の部

- ①西川かりん (武豊)
 ②須藤 和則 (幸田)
 ③渡辺 幸司 (三好)
 ④加藤 遥香 (東郷)
 ⑤於久 幸大 (扶桑)
 ⑥石田 雄真 (武豊)
 ⑦加藤 舞 (小坂井)
 ⑧山田和佳奈 (三好)
 ⑨糟谷 悟 (吉良)

大会について

- ⑨冬季強化合宿について
 ⑩その他

・2011年以降のジュニアユース大会招致について

2 報告事項

- ①愛知県体育協会表彰者の推薦について
 ②ジュニアオリンピック大会の結果報告
 ③スーパーレディース駅伝大会の結果報告
 ④名古屋ハーフマラソン大会の結果報告
 ⑤日本ジュニア・ユース大会視察報告
 ⑥全国情報処理研修会の報告
 ⑦全国強化担当者会議の報告
 ⑧陸上競技教室の状況報告
 ⑨各専門委員会からの報告

3 その他

(稲垣 裕)

理事会等会議報告

○常務理事会 21年9月16日(水)18時 教育会館

1 協議事項

- ①日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会について
 日程 平成21年度(山梨県10.16~18)
 平成22年度(愛知県10.15~17)
 ア 実行委員会の組織・業務分掌について
 ・組織…会長(梅村清弘)
 実行委員長(外山幸男) その他
 ・分掌…総務委員会(稲垣裕)
 審判委員会(榊原茂)
 施設用器具委員会(青木実)
 競技情報処理委員会(石鎚一則)
 記録・報道委員会(岡田武彦)
 その他委員会
 総務より提案され、概ね了解される。
 イ 本大会までの日程について
 総務より提案され、概ね了解される。
 ウ 視察員派遣
 ・資格審査…5名(外山理事長、他4名)
 ・本大会…9名(國分副会長、他8名)
 外山理事長より提案され、了解される。

2 報告事項

- ①名古屋ハーフマラソン大会要項について
 ②全日本中学選手権結果について
 ③全日本マスターズ陸上競技大会について
 ④優良審判員の報酬について
 ⑤情報処理担当者研修会(11月21日 東京)
 ・昨年同様、石鎚一則氏 参加
 ⑥トラック競技運営研修会(12月5・6日 東京)
 ・北村 肇氏 参加
 ⑦各委員会報告事項

3 その他

○理事会 21年12月9日(水)18時 教育会館

1 協議事項

- ①各種栄賞候補者の推薦について
 ②平成22年度競技会等の日程について
 ③全国都道府県男女駅伝選手等選考について
 ④審判員昇格候補者について
 ⑤2010名古屋国際女子マラソン大会について
 ⑥2010読売犬山ハーフマラソン大会について
 ⑦2010名岐駅伝競走大会について
 ⑧第20回西田修平・高橋公一記念国際室内棒高跳競技

栄章

おめでとうございます

◎平成21年10月2日(金)~6日(火)第64回国民体育大会陸上競技大会にて、会場の新潟市「東北電力ビックスタジアム」で表彰式が行なわれました。日本陸上競技連盟から表彰された方は、以下の皆様です。心よりお祝いたします。

(秩父宮章)…日本陸連・加盟団体への功労者

水野 久 (名古屋中学・高校)

(平沼亮三章)…高校生指導者としての功労者

若杉鋼洋 (岡崎城西高校)

(河野謙三章)…中学生指導者としての功労者

秋田明憲 (東港中学)

(春日 弘章)…高校生競技者として優秀な者

中村明彦 (岡崎城西高校一中央大学)

(河野一郎章)…中学生競技者として優秀な者

石黒大介 (今伊勢中学—豊橋工業高校)

◎平成21年「秋の叙勲受賞者」の発表が、文化の日11月3日(火)にありました。

当協会梅村清弘会長が旭日重光章(私学振興功勞)を国より受章されました。協会あげて、心よりお祝い申し上げます。詳細につきましては、あらためて次回17号広報にて、ご紹介いたします。(稲垣 裕)

編集後記

◆第40回ジュニアオリンピックでの愛知の活躍は、新生愛知の底力となること間違いなし。「陸上王国愛知」の名が全国に発信。さらなる躍進を願う。◆3日間の過密スケジュールの中で、第30回全日本マスターズ大会が無事に終了。多くの方々のご協力とご支援に感謝!◆新潟国体は、選手、スタッフともにお疲れさま。今年こそは、天皇杯・皇后杯入賞を!◆新しい年(寅年)の始まり。虎視眈眈目標に向かって新たな一歩を踏み出す飛躍の年にしたい。

編集委員

占部 輝之 大久保真理子 大西 敏功 外山 修
 中尾 洋一 新美 準人 西垣 完彦 野口 一昭
 山本 三郎